



平成三年（一九九一）

11・2 執筆打合せ（中世班）

11・5 執筆検討会（民俗班）

11・11 第62回編集専門委員会

11・15～16 福島県伊達郡へ塚目太郎家政の調査（久保田委員、大久保・小松調査員）

11・25 近代資料編編集打合せ（新井委員）

11・30 みずくらいど13号発刊

12・13 近代資料編原稿完成

12・16 中世執筆打合せ（大久保・小松・平野調査員、久保田委員）

12・20 民俗班研究会（保坂・山崎・森田・木下・浅井調査員）

平成四年（一九九二）

1・4 現代班打合せ（川鍋委員、橋本・高崎・田村・田中調査員）

1・13 近代資料編初校

第63回編集専門委員会（下巻の構

成、上巻の進捗状況の検討、現代資料編は次年度刊行へ）

1・22 民俗班調査研究会（保坂・山崎・森田・横地・木下・浅井調査員）

2・1 資料編校正（新井委員）

2・4 片倉跡地試掘見学（長者堀）

2・10 民俗班研究会

2・12 第13回編さん委員会

2・17 現代原稿整理（松本調査員）

2・24 近代資料編校正（新井委員）

3・4 萩原家文書調査（於五日市町郷土館―牛米・峰岸調査員） 近代資料編校正（新井委員）

3・11 みずくらいど編集打ち合せ（川鍋委員）

3・14 片倉跡地試掘見学（小松調査員）

3・23 現代打合せ（橋本・柚木・松本調査員）

3・23 市史公開講座「敗戦前後の人々の暮らし」川鍋幸三郎氏、「近世多摩の騷擾」北原進氏

3・23 第64回専門委員会

3・23 民俗班研究会 現代打合せ（橋本・松本調査員）



◇『みずくらいど』一号の編集を担当し、新しい市史研究誌のスタイルを私なりに打ち出してから、すでに七年、一五号をかぞえるところまできた。この間、開かれた市史づくりがどれだけできたか、いささか自信がない。水喰土が水を吸い取ったように『みずくらいど』はどれだけ市民の歴史への想いを吸い上げてきたのだろうか。市史が福生市民の共有財産になるには、厚くて立派な本をつくることではない。市史づくりの過程で、どれだけ市民の歴史意識に働きかけ交渉することができたかによる。そのための『みずくらいど』だった。

◇本物の水喰土は幸いにもこの間に、市史跡に指定され、永遠に残されることになったが、『みずくらいど』はどうか。定着させたいと思うのは私一人だけだろうか。

（新井記）

編集担当は、北原進・新井勝紘

みずくらいど 15号 (福生市史研究)

平成4年(1992)12月25日 発行

編集 福生市史編さん委員会

発行 ^{かつ}福 ^き生 市

〒197 東京都福生市本町5番地

電話 0425(51)1511

印刷 株式会社 精興社

〒198 東京都青梅市根ヶ布1-385番地
